

平成26年度全国学力・学習状況調査結果について

H26. 8. 25 秋田県教育委員会

概 観

○平成19年度以降、連続して大変良好な状況にあるという結果を得ることができた。その要因は、家庭・地域・学校・大学等がそれぞれの役割と責任の下で子どもを育てようとする、長年にわたって培われてきた本県の教育的風土であり、それを土台とした「秋田の知恵と力」の総がかりの取組の成果であると捉えている。

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
「秋田わか杉っ子 学びの十か条」
- ・各学校における一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」
- ・家庭や地域の教育力と協力
- ・大学との協力・連携

○県教育委員会では、今回を含めた7回の調査結果により、これまでの施策・事業等の方向性や有効性について一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校ごとに実施している共同研究体制による授業研究等は、大きな効果があったと考えている。

○データを個別にみると課題もある。今後、検証改善委員会を立ち上げ、「昨年度までの課題の改善状況」「今年度の調査から明らかになった課題」等について詳細な分析を進め、各校における継続的な検証改善サイクルの確立に努めていく。

○今後も、財産である本県の教育的風土を大切に、教育をより一層充実させるために、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただき、オール秋田で「教育立県あきた」を目指して取り組んでいきたい。

調査結果の活用

○本年度の調査は、昨年度に引き続き、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒を対象として4月に実施された。県教育委員会では、インターネット上で自己採点結果の集計・分析をするためのシステムを構築し、各学校に提供している。既に、各学校においては自己採点を進め、自校の課題を明らかにしてその改善に向け取り組んでいるところである。また、本調査を受けた学年の児童生徒に対しては、課題となっている部分を年度末までに確実に改善させた上で、進学・進級させることが大切であり、9月以降、その改善の方策を一層具体化して取り組むことになる。

○県教育委員会では、今回の結果とこれまでの結果を併せて、成果と課題を明確にし、調査の活用による指導改善・充実のための取組を進めていくことになる。特に、教育における検証改善サイクルについては、国と県の学力調査及び高校入試を一体として捉えたサイクルを確立し、推進していく。具体的には、全国学力・学習状況調査で課題を明確にし、県学習状況調査で課題の改善状況を把握していく。さらに、高校入試においても、「基礎的・基本的な知識・技能の活用」に関する力が把握できるような問題を作成し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆ 概 要

- 本県の平均正答率は、小学校・中学校ともに全ての教科で全国平均を4ポイント以上上回っており、良好な状況である。
- 小学校の算数及び中学校の国語、数学では全ての問題において、小学校の国語ではほとんどの問題において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 課題として取り組んできたB問題については、小学校で8ポイント以上、中学校で4ポイント以上、平均正答率で全国を上回っている。知識・技能等の活用に重点を置いた授業改善が徐々に進んできていると判断できる。
- 正答数分布は、全国に比べ正答数の多い層が厚く、反対に正答数の少ない層は薄くなっている。
- 無解答率は、小・中学校ともに、国語、算数・数学の全ての問題で全国平均を下回っている。また、小学校では全ての問題で、中学校では7割以上の問題で、全国の無解答率の半分以下となっている。
- 全ての児童生徒に定着が求められ、正答率が十分でない問題については、早急に指導の改善を図り、一層の向上を目指す必要がある。

小学校6年生平均正答率

() は全国との差

教科	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	77.4 (+4.5)	71.7 (+9.0)	86.9 (+5.3)	89.3 (+6.0)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国語B(活用)	67.3 (+11.8)	59.1 (+9.7)	63.0 (+7.4)	84.8 (+7.0)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算数A(知識)	85.1 (+7.0)	82.8 (+5.6)	79.5 (+6.2)	83.2 (+9.0)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算数B(活用)	66.2 (+8.0)	67.1 (+8.7)	64.0 (+5.1)	59.0 (+9.7)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)
理科			68.4 (+7.5)				

中学校3年生平均正答率

() は全国との差

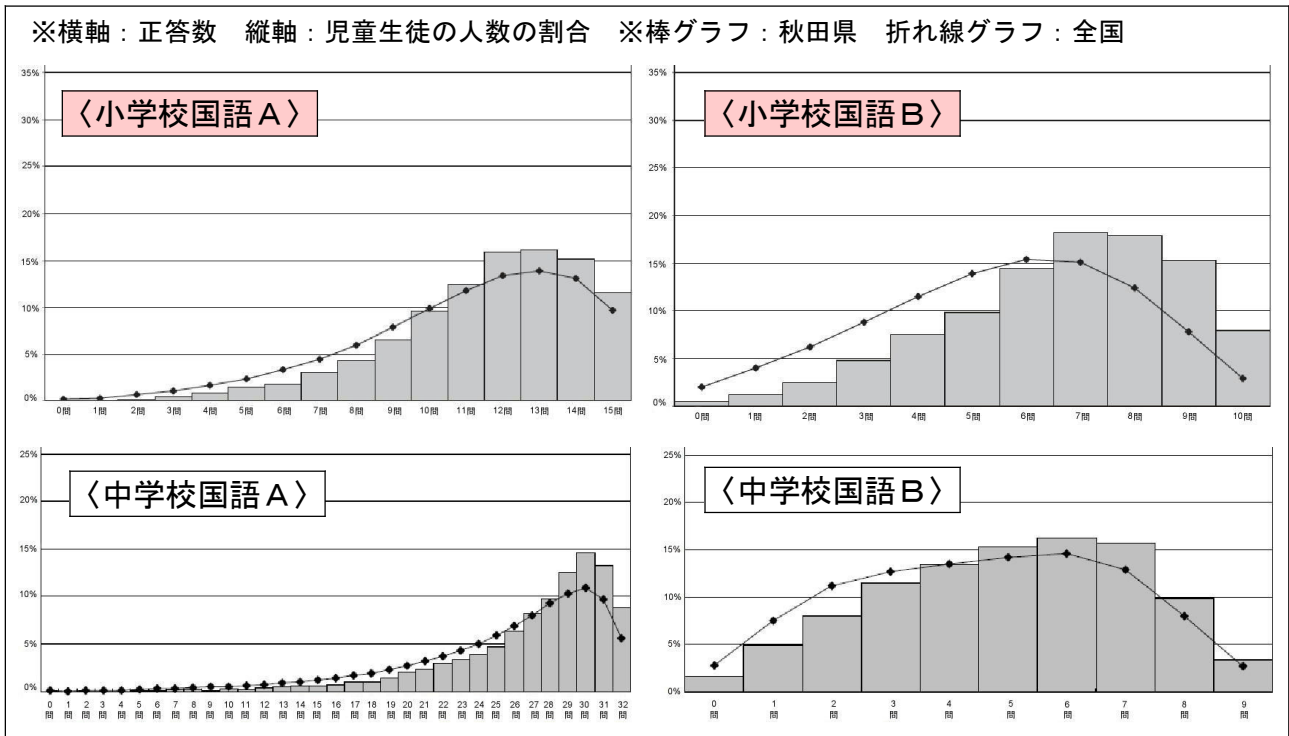
教科	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	84.4 (+5.0)	81.9 (+5.5)	79.7 (+4.6)	79.8 (+4.7)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国語B(活用)	55.8 (+4.8)	74.6 (+7.2)	70.3 (+7.0)	71.7 (+6.4)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数学A(知識)	73.0 (+5.6)	68.9 (+5.2)	67.4 (+5.3)	70.8 (+6.2)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数学B(活用)	65.5 (+5.7)	47.5 (+6.0)	56.7 (+7.4)	50.0 (+6.7)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)
理科			56.1 (+5.1)				

* 平成24年度、平成22年度については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されていますが、この表の数値はその区間の中央値を示しています。

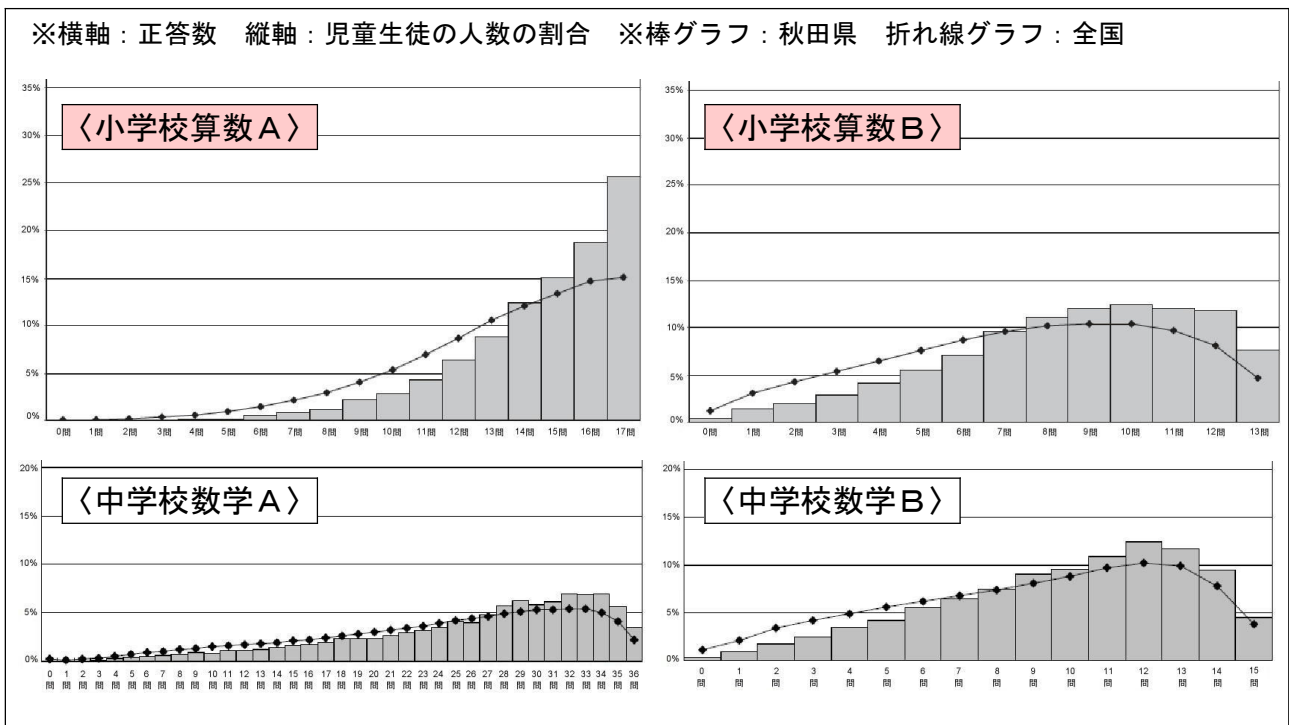
◆ 正答数分布グラフ(正答した設問の数と児童生徒の人数の割合を示したグラフ)

秋田県は全国よりも正答数の多い児童生徒の人数の割合が多い。

【国語】



【算数・数学】



各教科の成果と課題

【国語】

- 平均正答率では、全ての教科で全国を4ポイント以上、小学校Bでは、10ポイント以上上回っている。
- 県の学習状況調査で出題している「敬語の使い方」や、「司会の役割の理解」については改善が図られている。
- 小・中学校とも、文章や資料から必要な情報を取り出すことはできているが、それらを用いて適切に説明したり、要旨をまとめたりすることに課題がある。
- ことわざや慣用句、故事成語の理解については、依然として課題が見られる。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率 (%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 2			故事成語の使い方 ・五十歩百歩 ・百聞は一見にしかず	故事成語の意味と使い方を理解する。
	一	52.3	55.8		
	二	47.9	49.9		
中 学 校	B 1 三	41.7	28.3	相手の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く。	立場を明確にして、質問や意見を述べる。
	B 2 二	45.9	26.9	付箋の内容を関係付けて、まとめを書く。	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く。
中 学 校	A 6 一	61.5	54.3	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する。	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する。
	A 8 三ア	61.9	59.2	適切な語句を選択する。 ・急がば回れ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
	B 2 三	33.8	28.4	水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く。	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く。

【算数・数学】

- 平均正答率では、全ての教科で全国平均を5ポイント以上上回っている。
- 算数では、数量関係の領域において、数学では、関数の領域において、改善が図られている。
- 算数では、作図に用いられている図形の約束や性質を理解することや、示された情報を基に、条件に合う時間を求めること、必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述することに課題がある。
- 数学では、底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解することや、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明すること、付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることに課題がある。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率 (%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 6	61.0	52.0	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ。	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している。
	B 3 (1)	45.1	38.6	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く。	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる。
	B 3 (3)	37.1	30.6	示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く。	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる。
中 学 校	A 5 (4)	40.2	38.7	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ。	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している。
	B 4 (2)	27.4	23.3	二等辺三角形の性質及び合同の性質を利用して角の大きさを求める。	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる。
	B 5 (2)	37.3	32.1	ルールに基づいて、得点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる。

児童生徒質問紙調査の結果

◆ 概 要

- 全体として、望ましい生活習慣及び学習習慣が定着していると考えられる。
- 授業のはじめに目標が示され、児童生徒が考えを発表したり話し合ったりして主体的に課題解決を図る授業が展開されている。
- 学校では児童生徒のよいところを積極的に認め、自己肯定感を高める働き掛けをしている。

本県の結果（％）と全国との差（「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な回答）

	上回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
生	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	84.1	+ 4.9	80.6	+ 6.5
活	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	93.7	+ 2.8	94.7	+ 2.6
習	◎平成19年度から連続して90%以上を示している主な項目				
慣	・朝食を毎日食べている。 ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。				
学	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上)		(1時間以上)	
習	家で自分で計画を立てて勉強していますか。	96.0	+ 8.8	77.2	+ 9.3
慣	家で学校の授業の復習をしていますか。	80.6	+19.6	62.6	+16.0
授	前学年までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。	90.7	+36.7	84.4	+34.0
	前学年までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。	90.1	+ 6.4	92.2	+11.1
	前学年までに受けた授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	92.1	+ 7.2	90.0	+14.7
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	77.4	+11.5	76.7	+14.8
	前学年までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。	94.8	+12.8	95.6	+24.1
	前学年までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	86.6	+14.7	80.3	+27.0
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	77.1	+15.7	77.2	+21.1
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	70.8	+12.3	67.2	+18.1
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	80.2	+13.9	52.0	+11.1
	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしていますか。	89.6	+ 8.3	79.2	+ 9.2
そ	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	82.5	+18.7	81.6	+26.8
	自分には、よいところがあると思いますか。	82.8	+ 6.7	76.2	+ 9.1
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	88.2	+ 8.5	83.2	+ 9.1
他	将来の夢や目標をもっていますか。	91.7	+ 5.0	80.0	+ 8.6

学校質問紙調査の結果

◆ 概 要

- ほとんどの学校が一斉読書の時間を設定し、読書の習慣化に向けて取り組んでいる。
- ほとんどの学校が授業に言語活動を取り入れており、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて取り組んでいる。
- 補充的な学習を行ったりチームティーチングを取り入れたりするなど、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導が行われるようにしている。
- 国語では目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を、算数・数学では実生活における事象との関連を図った授業を行った割合が、全国に比べて高い。
- 家庭学習の取組を促すために、ほとんどの学校が教職員の共通理解の下、学習方法等を具体的に指導するなどして取り組んでいる。
- 教科の指導内容や指導方法に関して、小学校と中学校が連携した取組を行っている割合が、全国に比べて高い。
- ほとんどの学校で、将来就きたい仕事や夢について児童生徒に考えさせたり、職場見学や職場体験活動を行ったりしている。特に、小学校の実施の割合は、全国を大きく上回っている。

本県の結果（％）と全国との差（「よく行った」「どちらかといえばよく行った」など肯定的な回答）

上回っている主な項目	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
「朝読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。	(週に1回以上) 97.7	+ 6.9	(週に1回以上) 90.3	+ 8.2
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。	97.3	+ 7.1	98.4	+13.5
授業で、補充的な学習の指導を行いましたか。	国 語	75.0 + 4.1	83.9	+ 9.0
	算数・数学	92.3 + 2.8	92.7	+ 5.1
算数・数学の授業において、前年度にチームティーチングによる指導を行いましたか。	79.2	+16.8	80.7	+26.7
国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。	94.5	+ 6.3	95.2	+13.7
算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	75.0	+ 8.8	76.6	+15.8
家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。	96.3	+10.9	93.6	+16.7
家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。	98.2	+10.0	97.6	+12.8
教科の指導内容や指導方法について、小中連携（教師の合同研修や交流、教育課程の接続）を行っていますか。	80.5	+18.1	87.1	+15.0
職場見学や職場体験活動を行っていますか。	73.2	+28.3	100	+ 1.5
将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。	95.0	+23.0	96.7	+ 2.5

全国学力・学習状況調査の活用

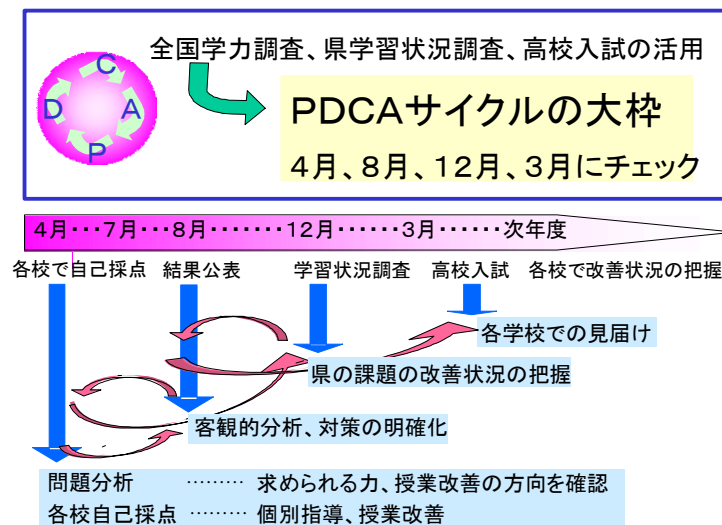
◆ 概 要

- 自校の教育指導の改善に向けて、ほとんどの学校が平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で活用している。
- 保護者や地域の人たちに対して、調査結果について公表や説明をしたり、学力向上の取組について働きかけを行ったりしている学校の割合が、全国に比べて高い。
- 自校の教育指導の改善に向けて、ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析している。

◎学校質問紙調査結果（％）より（「よく行った・行った」と回答した割合）

質問項目	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。	100.0	+ 2.9	96.7	+ 1.4
平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99.5	+ 5.9	95.9	+ 5.5
平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む。）	96.3	+15.2	89.5	+13.9
平成25年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。	95.9	+10.9	89.5	+12.3
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	99.0	+10.1	95.9	+11.4

- 県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立を推進し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていきます。



県教育委員会の取組について

☆学力向上関連事業等

◆これまでの事業等

- 少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
- 学習状況調査事業（H14～）
- 教育専門監の配置（H17～、義務教育課はH18～）
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条（H20～）
- 小学校まなび・ふれあい充実事業（H21～23）
- 小・中連携いきいきスクール事業（H24、25）
- 小学校外国語活動教員研修事業（H21～25）
- 算数・数学学力向上推進事業（H17～22）
- 学力向上推進事業（H23～）
- 読解力向上のための指針の作成（H20～24）
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成（H24～）

◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
 - ・少人数学級を中学校第3学年まで拡充（H25に中学校第2学年まで拡充）
- 小・中連携実践研究モデル事業
 - ・小規模小学校（児童数90人未満で6、7学級程度）を含む中学校区の中学校へ臨時講師を1名配置
- 学力向上推進事業
 - (1) 学習状況調査事業
 - (2) あきたの教育力充実事業
 - ① 学力向上支援事業
 - ・教科指導CT（中核教員）養成研修会
 - ・学校訪問指導
 - ・学力向上支援Webサイト活用
 - ・理数探究体験セミナー（児童生徒対象 平成26年8月16日～18日）
 - ・科学の甲子園ジュニア秋田県大会（平成26年8月24日）
 - ② あきたの教育力発信事業
 - ・検証改善委員会による全国学力・学習状況調査の分析・提言
 - ・学力向上フォーラムの開催（平成26年11月8日 由利本荘市）
 - ③ キャリア教育推進事業
 - ・キャリア教育実践研究協議会、キャリア教育推進協議会の実施
- あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業
 - ・小・中・高の連携により、英語によるコミュニケーション能力を身に付けた子どもの育成を目指す